

40代半ばの精神障害者の生活支援を どうすすめていくか

スーパーバイザー

野中 猛（日本福祉大学教授）

事例提出者

Mさん（精神科ソーシャルワーカー・病院勤務）

事例の概要

クライアント：A氏・46歳・男性

疾患名：躁うつ病？（昭和50年発症）

服薬管理：自己管理できている（朝、夜、頓服）

通院状況：週1回（金曜・デイケア来所及び診察）

障害者手帳：なし

生活維持の手段：障害年金（基礎1級）、職親からの賃金（2.7万円/月）。不足気味である。

金銭管理：1カ月に1度、実家にて年金を受け取る。賃金は自己管理。

対人関係：友人は多く、生活している援護寮でもリーダー的存在。

家族関係：両親は健在（父73歳、母70歳）で、隣町に居住。家族内で最も発言力があるのは母親で、本人は時として母親と衝突している。

趣味等：パチンコ

病状対処能力：頓服の服用及びスタッフへ相談することで対応。

具合が悪い時の状態：将来の不安、金銭面での不安等で抑うつ的になりやすい。無口で不機嫌となる。以前は、躁状態の時に多動多弁が見られたが、ここ数年はない。

障害の捉え方：本人なりに認識し受けとめており、無理はしない。

生育歴・現病歴：

地元高校から調理師専門学校に進学。卒業後、調理師の助手として働くも、すぐに発病し、昭和51年精神科に初回入院。入退院を数回繰り返し、その間職を転々とする。昭和62年、共同住居に入居し、実家から離れて生活を始める。平成3年、木材加工会社に就職し、平成8年まで勤めるも、調子を崩し再入院する。平成10年退院し、実家にて生活を始めるが、本人、家族とも実家から離れた生活を希望し、平成13年に援護寮に入居する。デイケアに通いながら就職先を探していたが、本人の希望により、平成14年に作業所への通所を開始する。定期的に通えるようになり、本人もステップアップを望んだことから社会適応訓練への移行を試みる。園芸農家への見学及び実習の結果、平成16年3月より訓練開始する。

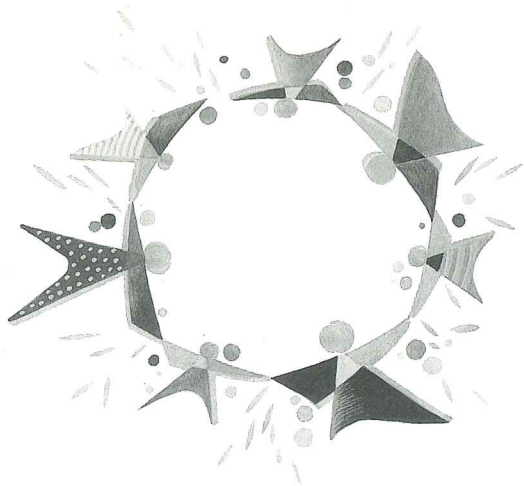
訓練開始後の経過

開始当初：

暑さや体力的な不安を病院職員に再々訴えるが、なんとか毎日出勤する。賃金面での不満を訴えながらも、職場では「作業ペースはゆっくりだが仕事ぶりは丁寧である」との評価を得る。

1カ月後：

仕事にも慣れてきて、ほぼ休まず勤務できるようになったが、疲れが見えてきており、作業が少し雑になった様子。職場からは「少し意欲が落ちているようであるが、必要最低限のことはできている」と



全国各地で行われている事例検討会の模様を誌上で再現します。検討会及び事例の内容は、プライバシー保護の観点から、全体の趣旨に差し支えない範囲で変更させていただきました。

の評価。

3カ月後：

暑さが厳しくなってきたり、体力的な不安を訴えつつも、継続して勤務している。職場は「暑さとともに作業のペース配分を考えながら指導している」とのこと。

6カ月後：

訓練半年の更新を迎え、地区担当の保健所保健師の面接を受ける。職親側からは「今回の訓練更新は可能だが、次回（1年時点）の更新は難しいかもしれない」との評価。本人としては、更新して次の職場も探しながら、今後について検討していきたいとの希望がある。

現在：

職場では「仕事のやり方を全体的に徐々に変えて

いく予定であるが、本人は柔軟に対応できており、気もよくなっている」との評価。本人も半年過ぎ、ペースがつかめてきており、安定してきた様子。

訓練事業を利用した効果：

気分の浮き沈みの波が少なくなる。

今後の方向性：

訓練を継続しながらハローワークにて情報収集を行う。次回の訓練更新までに、現在の職親に継続雇用可能なか検討していただき、本人の希望を聴きながら次の段階を考える予定。

課題：

本人は次の段階に踏み出す不安を抱えている。一方、援護寮は3年が区切り。今後の本人の生活をどうしていくかが課題。

ケース検討会

野中 ありがとうございます。ほぼ10分くらいの説明で、だいたいの骨組みは伝わったと思います。では、この46歳の男性をこれから支援していくためにはどんなことをしていけばよいのか。まずは、Mさんからの報告に加えてどういった情報があればよいか、自分の価値観を交えずに事実を聞いていってください。見立てのための情報がある程度そろったところで、具体的な手立て（プランニング）に移りたいと思います。

では、質問をどうぞ。

ケースの全体像をつかむ（見立て編）

発症時の状況について

発言 精神科に最初に入院された時は、どんな状態だったのですか？

Mさん 最初は躁状態になって、多弁、多動、それから物をいろいろと買ったそうです。

野中 どんなものを買ったのですか？

Mさん 服とか生活用品などです。それほど高価なものではありませんが、不必要なものをたくさん買っていたそうです。

野中 初回の入院は何カ月ですか？

Mさん 4カ月です。

野中 どんなふうに治ったのですか？

Mさん 入院後は躁状態から一転して「自分はダメなんじゃないか」とか「親からも見放された」と落ち込んでいたそうです。その状態も4カ月程度で落ち着いて退院になったということです。

発言 その発症の要因は、どんなことだったのでしょうか。

Mさん 仕事を始めたばかりだったということしか情報がありません。

野中 調理師の助手になって働き始めたのが4月で、入院は？

Mさん 翌年の1月です。

野中 じゃあ、半年程度は頑張ったのかもしれないね。発症の時の状況がわかれば、今後どういう状況になったら状態が悪くなるのか予測することができます。そういう意味でも、発症時の状況に関する情報は極めて重要です。

Mさん わかりました。

発言 平成8年の再入院時は何があったのですか。

Mさん この時は、共同住宅で一緒に住んでいた方が突然亡くなって、ご本人が第一発見者になってしまったんです。それで非常にショックを受けて、共同住宅にはもう住めないだろうということで、いったん実家に帰ったのですが、お母さんと喧嘩をするようになり、怒りっぽくなって入院しています。

経済面について

発言 経済面についてお伺いしたいのですが、現在の1カ月の収入はどれくらいあるのでしょうか。また、金銭管理はご自分でされているのでしょうか。

Mさん 障害年金が月8万円、社会適応訓練事業の時給が400円（火曜から金曜まで10～15時）で1カ

月2.7万円なので、1カ月の収入は約11万円になります。ご本人としては少し足りないと思っています。ご両親が時々1万円とか2万円をお小遣いとして渡しています。金銭管理は、障害年金はご両親が管理し、月に1回、実家に泊まりに行った時に受け取っています。訓練事業の賃金は自分で管理しています。

発言 支出の内訳はわかりますか？

Mさん 援護寮の家賃が2万円で、光熱費が1万円程度です。残りの約8万円を食費とタバコ、好きなパチンコ代などに使っているようです。

野中 パチンコにはどれくらい使っているのかな。

Mさん 多い時は1日に2万円くらい使うこともあるようです。ただ、収支としては、年金と賃金プラス両親からもらう小遣いでトントンです。

野中 親からの小遣いは毎月ですか？

Mさん いいえ、3カ月に1回くらいです。パチンコで使いすぎた時にもらっているようです。

セルフマネジメント能力について

野中 どんな体型ですか？ 描いてみてくれる？

Mさん （ボードに絵を描きながら）中肉・中背で、ガッチリした体型をしています。身長は170cmくらいです。

野中 （絵を見ながら）上から見ていきましょうか。床屋には行っていますか？

Mさん はい。2カ月に1回くらい行っています。いつも短めで清潔にしています。

野中 一人で行くのですか？

Mさん はい。

野中 着るものは自分で買っていますか？

Mさん はい。近所の大きめのスーパーで自分で買っています。

野中 どんなスタイルが好きなんでしょう。

Mさん Tシャツにジーパンなど、動きやすい格好をされています。

野中 オシャレは？

Mさん ことさらオシャレにしようという感じではありませんが、上下の組み合わせなどは気をつけていらっしやいます。

野中 本人に似合っていますか？

Mさん はい。おかしい感じは全然ありません。

野中 洗濯はどうしているのですか？

Mさん 援護寮にある共同の洗濯機を使って、自分でしています。

野中 靴はどんなものを履いていますか？

Mさん スニーカーがほとんどです。

野中 凝った靴ではないですね？

Mさん はい、近所のスーパーに置いてあるような、ごく普通のスニーカーです。

野中 カバンなどはどうですか？

Mさん カバンは持たずに、いつもポケットに財布を入れて動いています。

野中 いくらぐらい入っているんだろう (笑)。

Mさん ふだんは5000円くらいです。

野中 よく知ってますねえ (笑)。

Mさん 時々ご本人から話を聞いたり、援護寮の方からも情報がいただけたりするのです。

野中 そこまで情報をもっているのは大したものですよ。タバコは吸いますか？

Mさん はい。1日に1箱程度吸われるそうです。

過去の就労経験について

発言 わりと職を転々とされていますが、一つの職場にはどれくらい定着していたのでしょうか。それと、一番長かった仕事の中身を教えてください。

Mさん 最初に就職した昭和50年から平成3年までは、だいたい1、2年で職を転々とされています。

一番長く続いたのは、最後の木材加工会社です。こちらは、社長が主治医の知り合いだったので、お願いして働かせてもらったという経緯もあって、障害をもっていることや通院についても理解をしてくださっていたようです。この会社では、6年勤続しています。これが最も長い期間です。

野中 そこではどんな仕事をしていたのですか？

Mさん 伐採してきた木を加工する前の下作業だと聞いています。

野中 週に何時間働いていたかわかりますか？

Mさん 平日は毎日働いていたようですが……。

野中 就労支援をする時には、その人が週何時間働けるかは重要な情報です。健全な時は時間数などまったく気にしないで働いていた人でも、障害をもったとたんに長時間働くのが難しくなるのです。その人が1日何時間働ける人なのか、就労支援に携わる専門職は必ず押さえておく必要があります。

Mさん はい。

野中 ところで、辞める時はどんな辞め方をしたか聞いていますか？

Mさん 「発病を契機に退職になった」ということしか聞いていません。

野中 就労支援をする場合、往々にして就労するまでに集中しがちですが、特に精神障害者の場合は、どのようにうまく辞めるかが重要なんです。例えば、このケースでも「具合が悪くなったので辞めさせていただきます」と頭を下げて辞めていれば、よくなった時にまた働ける可能性がありますよね。でも、社長を殴って辞めてしまったら次はありません。しかも、この話は目の前の人にだけかかわることではないのです。一人の精神障害者の仕事の辞め方いかんでは、「もう精神障害者なんて絶対に雇わないぞ」と思わせてしまいます。社会資源を大切にするためにも、辞め方は重要なんです。



Mさん よくわかりました。

発言 これからの就労を考えた時、どんな仕事が好きなのか重要だと思うのですが、ご本人は何かご希望をもっていらっしゃるのでしょうか。

Mさん はい。もともと調理師資格をもっていますし、これまでも食事関連の職場で働いていた経験も多いので、そういった方面で働きたいという希望も持っていらっしゃいます。

野中 そもそも調理師の資格を取ろうと思った動機は何ですか？

Mさん すみません、そこまでは聞いていません。

野中 就労のモチベーションにかかわるところですから、しっかりと聞いておくといいですよ。

Mさん わかりました。

症状と診断名について

発言 ご本人の気分の浮き沈みの波というのは、どんな時に起こっているのですか。また、その対処の仕方についても教えていただけますか。

Mさん 気分の浮き沈みは、援護寮を出て住むところを探さなければいけないとか、パチンコですってしまってお金がない時とか、援護寮のメンバーとちょっとした言い合いをした時などに抑うつ的な状態

になって、不機嫌になります。対処の仕方としては、気分がすごく落ち込んでいる時は頓服薬を飲まれます。少し気分が落ち着いてからは、援護寮の職員やデイケアの職員に話を聞いてもらってストレスを発散しているようです。

野中 聞いてもらうのは、特定の相手ですか？

Mさん その時によって相手は変わりますが、聞いてくれそうな人を選んで話しています。

野中 適切な聞き手を選べるというのは、力がある証拠ですね。薬は何を飲んでいるのですか？

Mさん ロドピン100ミリ、コントミン50ミリ、リーマス200ミリ、テグレトール200ミリです。

野中 なるほど。医者診断は？

Mさん 診断名は躁うつ病です。

野中 そうですか。躁うつ病であれば、もっとしっかりした波があるはずですけどね——。本当に躁うつ病であれば、一つの職場で6年も働けるほどよい状態が続くことはまずありません。対人関係のなかで浮き沈みがある点や6年間も同じ職場で働き続けられるなど、私には統合失調症の情動型としか思えないんですけどね。何歳くらいのドクターですか？

Mさん 40代です。

野中 腕は？

Mさん 優しくて、よく話を聞いてくださるので、患者さんからの評判はいいです。

野中 なるほど。ただ、診断についてはやはり確認したいですね。「先生、まだ経験が浅くて病気のことがよくわからないのですが、躁うつ病と統合失調症の情動型とはどう違うのでしょうか。この患者さんはどちらなのでしょう？」と聞ける相手ですか。

Mさん はい、それは聞けます。

野中 じゃあ、一度確認したほうがいいですね。それと、薬が体力を奪っている可能性もありますから、その点もさりげなく確認するといいでしょう。

Mさん はい、わかりました。

家族との関係について

発言 説明のなかでは、父親との仲が今ひとつ見えてこなかったのですが、どんな関係なのでしょう。

Mさん 月に1度の外泊の時にはふつうに話をされています。特に関係が悪いわけではないようです。

野中 お父さんは何をしていたらっしゃるんですか？

Mさん 自宅近くのシールなどを作る工場で働いています。一度退職されて、現在は嘱託のようです。

野中 経済的には問題はないですね。

Mさん はい。少なくとも困っているという感じではありません。

発言 ご本人は車に乗られるということですが、ご本人名義なのでしょうが？ また、ガソリン代や車検代など維持費がそれなりにかかると思うのですが、ご自身で負担されているのでしょうか。

Mさん 名義はお母さんになっています。ガソリン代と保険料は自分で払っていますが、車検代は両親が負担しているようです。

野中 なぜ母親名義なのでしょうが？

Mさん 理由は聞いていません。

野中 そのあたりにも敏感になるといいですよ。もし、お母さんに取り上げられたら、自由に使えなくなってしまうですね。それに車検代も払ってもらっているから、いつまでも何となく親に頭が上がらない感じになってしまうんです。パチンコに使う金

があったら、車検代ぐらい払えるはずですよ。本当に自立した生活を送るためには、重要な点ですよ。

Mさん はい。

友人関係について

発言 友だち付き合いなどは上手にされているのでしょうか。

Mさん はい。援護寮ではリーダー的存在で、週末はご本人の車にメンバーを乗せて一緒に外出することも多いです。

野中 ガールフレンドなんかはいるのかな？

Mさん 3年くらい付き合っている女性がいます。

野中 結婚は考えていないの？

Mさん 今はそこまでは考えていないそうです。週に1回、彼女の実家まで車で30分ほどかけて会いに行き、ご両親と一緒に食事をして帰ってこられます。週に1回くらいがいいペースなんだそうです。「あまりしょっちゅうだと疲れる」とおっしゃっています。

野中 ああ、それはよくわかります（笑）。でも、毎週通っているなんて、律儀な人ですね。

Mさん かといって、真面目な堅物という感じではなく、冗談などもよくおっしゃいます。

野中 どんな冗談ですか。ダジャレふう？

Mさん いえ、ちょっとひねったような皮肉っぽい冗談を言われます。

野中 鋭い感じですか？

Mさん すごいなあと感じることも多いです。

野中 なるほど。思考障害はなさそうですね。

具体的な対応策を考える(手立て編)

野中 ここまでのやりとりで、だいぶ本人像が見えてきたと思います。次に、プランニングに移りまし



よう。就業経験もある46歳の男性が就労を目指すにあたり、これからどんな支援をしていけばよいでしょう。アイデアを出してあげてください。

就労支援に向けた具体的取り組み

発言 もし私がワーカーだったら、まずは今の仕事に対する満足度や不満を聞きたいと思います。

野中 大事ですね。そこから本人の希望を探っていくこともできますからね。

発言 職親の方に、もう少し継続できないかお願いをしてはどうでしょう。

野中 それはどういう意味ですか？

発言 ハローワークに行っても、すぐに仕事が見つかるとは限らないので――。

野中 「ノーマライゼーション」という言葉の意味をもう一度勉強したほうがいいですね。大事なのは「普通の生活」を基準にして考えることです。時給400円で月2万7000円の収入が、46歳の男性の普通の生活といえますか？ その生活を続けさせてくれと頼むのは、まったくの筋違いでしょう。それは援助でもなんでもありません。

発言 わかりました。すみません。 .

野中 職親と話をするとしたら、どんなことを聞けばいいと思いますか？

発言 仕事ぶりに対する評価じゃないでしょうか。

野中 そうですね。この人の働きぶりのどんなところがよくて、どこが悪いのか、職親の目で見たと評価を聞いておけば、次の仕事を見つける時にも活かされますよね。

発言 それと、先ほど先生がおっしゃっていた、何時間くらい働けるのか、体力面の評価も必要ではないでしょうか。

野中 大事な視点です。仕事はまずは体力ですからね。他にはいかがでしょう。

発言 援護寮をもう少しで出なくてはいけないということなので、その後の生活拠点について考える必要があるのではないのでしょうか。

野中 そうですね。まずはどんな住居がいいのか、本人の好みを聞く必要があるでしょうね。

発言 就労先を探すにあたっては、仕事の内容や時間、賃金などの就労条件をご本人がどう考えているのかを詳しく聞く必要があると思うのですが。

野中 その通りです。ただ、専門的な聞きとりはワーカー単独ではなく、専門家と一緒にしたほうがいいでしょう。今日は障害者職業センターのカウンセラーの方が参加していると聞きましたが、ここまでの情報を聞いて、このケースについてどんな感想をもたれましたか？

カウンセラー 就労に向けたステップを着実に踏んでこられている方の方ですので、あとは私どもと一緒に求人票を見ながら、ご本人の希望する内容と地域の実情とをすりあわせていくことになるかと思えます。同時に、残りの訓練期間を有効に使って、就労実現に向けた目標を立てて取り組んでいくことが重要ではないかと感じました。

野中 就労支援に特化したケアマネジメントを行うということですね。

カウンセラー それと、今後の働き方として、障害



をオープンにしていくのかどうか、また私どもがかかわる場合、1週間に20時間以上の労働という基準がありますので、そのあたりをどうしていくかも検討する必要があると思います。

野中 この方は、これまで障害をオープンにして働いてきた方ですから、基本的には開示の方向だと思いますが、本人と一度話し合う必要がありますね。あとは、現在の職親に週20時間以上働けないか交渉してみるということですね。Mさんは、ハローワークの職員は知っていますか？

Mさん 個人的には知りませんが、相談に行ったことはあります。

野中 このケースはまだ訓練期間中ですが、今の段階から相談しておくといいでしょう。ハローワーク側も時間の余裕があったほうが仕事がしやすいですからね。

Mさん はい、わかりました。

両親の心理教育の必要性

野中 他にはいかがでしょう。

発言 ご両親は障害に対して正確な理解があるのでしょうか。

野中 小遣いをあげたり車検代を負担している点など、たしかに気になりますね。ご両親は心理教育は受けていますか？

Mさん 家族会には参加されていますが、心理教育は受けてないと思います。これまでお勧めしたこともありませんでした。

野中 それでは学習できませんよね。まずは「ぜんかれん」を読んでもらうことでしょうか。そして、むやみにお金を渡すのはよくないということを学んでもらう。この人にとって、金銭管理がきちんとできるかどうかは、今後の人生を大きく左右しますからね。46歳という年齢を考えれば、今回がラストチャンスです。パチンコが好きなのは決して悪いこと

ではありませんが、それで人生を失敗してしまつたら元も子もないですからね。

だいたいこんなところでしょうか。いかがですか、Mさん。

Mさん 皆さんに検討していただいたおかげで、これからやるべきことが整理できましたので、スッキリしました。ご本人と一緒に、一つひとつの項目に着実に取り組んでいきたいと思っています。ありがとうございました。

